

老人クラブ三大活動

健康

友愛

奉仕

ねんりんおうみ

—— 第83号 ——

米原市近江老人クラブ連合会発行 電話 0749 (52) 4393

第40回 近江高齢者大会

十月四日(水)に近江公民館「ときめきホール」にて近江老人クラブ連合会主催の「第四十回近江高齢者大会」が開催されました。

今年度は、白寿3名、米寿47名、喜寿44名、金婚19組の方々のお祝い式典が行われ、粕洲会長よりお祝い状と記念品の贈呈がありました。互いの長寿を喜びあいました。



旧近江町老朽連、ならびに旧坂田郡老朽連の会長を歴任され、老人クラブの発展に貢献された世森与喜雄さんからのお礼の言葉を掲載します。



謝辞 『米寿を迎えて』

世森 与喜雄

始がまりました。これらの事業は「びわこ総合開発特別措置法」に則して実施されたものです。そして平成12年には介護保険法が制定されて、今日に至っています。

高齢者大会をかくも盛大に開いて頂いて、白寿、米寿、喜寿、金婚のお祝いをして頂きまして、心より厚く感謝申し上げます。私の過去を顧みますと、昭和5年に生まれまして、12年に支那事変、16年に大東亜戦争が始まりました。20年に終戦となりました。その後は平和憲法の下、主権在民、自由主義の旗印の下、生活環境が一変しました。35年には所得倍増計画により、国が発展して、39年には東海道新幹線が走り、東京オリンピックが開かれました。わが旧近江町では57年からほ場整備・かんがい排水事業が始まり、平成3年には下水道事業の個人の供用開始が始まりました。

こうして過去の歴史を振り返ってみますと数多くの喜怒哀楽はありましたが、よくぞ今日まで生きられたものだ、感慨無量です。この間には有形無形の皆様のご指導ご支援のあった賜と深く感謝申し上げます。これからは、食事は腹八分目で、適度の運動をして、健康寿命を保って行きたいと願っております。そして、がんばりすぎないで、人生の坂をゆっくりと転ばぬようにして、下りて行きたいと願っています。

以上所感の一端を申しのべまして感謝の言葉にかえさせていただきます。

ありがとうございました。

単老だより

人生を楽しもう

能登瀬 T・T生

もういい年齢になりました。勤めている時は、思うように休みが取れず好きな所へ行くこともなかなかできませんでした。また、勤めを辞めてからもいろいろ役を頂戴して、こなすのに精一杯の状態でした。今も役を3、4つ貰っています。以前より自由時間があります。

だから遅ればせながら、今まで行けなかった所へ出かけることを心掛けることにしました。

ずっと前に片山津温泉へ行きましたが、この時はのんびりできてよかつたなと思っています。安いのので良いからまた温泉へ浸かってゆつ々しいものです。

花見も船から海津大崎の桜を見ました。お天気もよく最高の気分でした。

秋には、「まつたけの食べ放題」に行きたいなと思っています。

このようにささやかながら人生を謳歌しようと考えています。

一方、皆さん歩いて足腰を丈夫にしておられるのを見て、私も見習って歩こうと意気込みはいいのですが3日坊主で、これではいかんと思っています。しっかりと歩いてしっかりと遊んでと思う今日この頃です。

本格化する少子高齢化時代の老人クラブ

西円寺 K

少子高齢化が叫ばれて久しいのですが、二年前の国政調査によるとすでに四人に一人が六十五歳以上という「超高齢社会」に入っているということです。

当自治区においても、十数年前とは人口減に加えて年齢別人口構成がすっかり変わってきており、高齢者がより高齢化し、六十代ではまだ現役で働く人が多く、老人クラブの活動も以前と同じようには出来ない状況です。日本の高齢

化率のスピードは、世界的に見ても極めて速く、先進諸国の中でも群を抜いていると言うことです。

これがそのまま縮図となって、各自治区に現れているものと考えられます。

四人に一人が高齢者という現状では、三人が一人を支える騎馬戦型社会であり、遠からず二人が一人を、さらに進むと一人が一人を支えるという肩車型社会になるということです。年齢だけで見ると暗い将来しか見えませんが、見方を変えれば明るい展望もあります。

同じ年代でも数十年前の人と比較すればまだまだ若々しいと言うことは、誰でも感づいておられることと思います。データ上でも肉体的に若返ったのは事実のようです。健康で元気な老人も多い現状を考え、高齢者を六十五歳以上でなく七十五歳以上と定義するべきだとの声もあります。しかし健康状態に関する個人差は年齢を重ねるほど大きくなっていきます。こういった状況を鑑み、当自治会の老人クラブは、どのような活動をし、どのようにあるべきかの検討

を今後重ねていくべきだと考えております。

舟崎長生会の活動

舟崎 廣田 進

今年度の舟崎長生会会員数は、昨年とほとんど変わりなく男性19名・女性23名の合計42名です。

当会では、60歳になられた方に入会の勧誘を行っています。以前は、登録だけでもとすぐに入会をしていただけたのですが、今では60歳からの入会はなかなかしていただけないのが現状です。その為、役員の選出が思うようにまわっていき2年前より会長・副会長の各2年(通算4年間)を受けている状態です。

年間の活動内容は、例年通り花見会から始まり、年数回のグラウンド除草、廃品回収、神社の葉刈り、社務所・公民館の清掃、男性料理教室、友愛訪問、区民体育祭の参加、忘年会、新年会、物故者追悼法要を行っています。

また、今年度は、近江老ク連大

会で女性の輪投げ部門で日頃の練習成果を十分に発揮していただき1位の成績を収め9月には米原老ク連スポーツ大会に参加することになりました。

今後このような活動が続けられ、会員の方が益々元気に楽しくふれあいの輪を広げていただき、それにより一人でも多くの方が入会していただけることを念じています。

母の郷「夕涼み会」に参加・協力して

母の郷 箕浦 吉弘

母の郷ニュータウンは約20年前に宅地造成され、その後住宅入居が進み、現在では賃貸住宅を含め225世帯が居住し、近江地区では比較的新しい自治区であります。

当シニア会は自治会発足後に有志の方々から、健康で明るく生きがいのある生活を送りたいとの強い思いから平成13年に発足し、現在では会員数は35名(男性16名、女性19名)の世帯数の割合から見ると少ない会員数ですが、自治会

の皆様方と幅広く触れ合うことをモットーに、自治会活動には積極的に参加、協力することとして、シニア活動に取り組んでいる所の一事について今回紹介します。

母の郷「夕涼み会」は自治会行事の最大のイベントで毎年8月の盆過ぎに開催され、焼き鳥、焼そば、フランクフルト、ドーナツ、カレーライス等の模擬店による販売や生ビール、ワイン等の販売、また子ども向けのかき氷、綿菓子等の手作り販売が行われます。イベントとしては「輪投げ大会」、「バールンアート」、「全員参加ジャンケン大会」、「大抽選大会」が実施されるもので、殆どどの自治会員の皆さんが参加され、毎年盛り上がる楽しい夏祭りです。

そのような中、当シニア会は模擬店でのスタッフ協力や「輪投げ大会」の運営協力をシニア会員数の半数近く13名の方が夕暮れ時から晩まで、熱中症に気配りしながら参加・協力することにしました。模擬店販売では、9名のシニア会員が協力することとなり、自治会役員と連携を取りながら和気あ

いあいの中、約2時間に亘って夕涼み会に参加された方々と直に触れ合うことが出来ました。

特に今年は例年どおりの模擬店協力に加え、輪投げ大会が始めて企画されたことに伴い、大会の参画から運営迄を4名のシニア会員が担当することになりました。

輪投げ大会は参加する子ども達が楽しいゲームになることを念頭に、輪投げのやり方を手振り、身振りで教

え、幼児から中学生迄の子ども中心メンバー50名を4クラスに分けて、簡単そうに見えて奥深く、面白味もある輪投げを都合2ラウンドのゲームを実施し、高得点者には順位付け表彰や賞品授与などを

行ったところ、参加された子ども達とゲームを通して直に触れ合う楽しいイベントになりました。

輪投げに参加した子ども達から楽しかったとか、もっともっとやりたかったとか、来年もやって欲しいなど様々な要望があり、今回のイベントを通じて子ども達とシニア会員が有意義なふれあいの場になったものと自負しています。



これから「夕涼み会」のようなイベントを通して、子ども達を始め自治会の皆様方と地域交流のふれあいを深め、元気で生き生きとしたシニア活動を会員の皆様と一緒に取り組んでいきたいと思ひます。

第28回 米原市老ク連 高齢者スポーツ大会



米原市老ク連スポーツ大会が九月二十七日(水)長浜バイオ大学ドームにて行われました。

近江老ク連より選手、応援者、役員を含め125名が参加されました。当大会へは、伊吹、山東、近江、米原の各老ク連での勝ち抜かれた選手皆さんの熱い戦いが繰り広げられ、近江老ク連より4チームが入賞されました。また、競技の合間には、和気あいあいな雰囲気では話弾み地域の仲間の輪が広がり、ふれあいを通して更なる絆の深まりを感じる大会でした。

選手のほか参加者の皆さんお疲れさまでした。(体育部)

種目 順位	ゲート ボール	グラウンド ゴルフ	ペタンク		公式ワナゲ	
			男子	女子	男子	女子
1	本郷	上野A	伊吹B	伊吹	大久保	舟崎
2	井之口	米原B	筑摩	南三吉	高番	寺倉
3	杉沢A	寺倉	宇賀野	村木	本郷	高番



ワナゲ女子優勝
舟崎チーム



ワナゲ女子2位
寺倉チーム



グラウンドゴルフ3位
寺倉チーム



ペタンク3位
宇賀野チーム



競技の様子



観客席



部会だより

光陰矢のごとし

会長 粕淵 進

私たち14名が近江老人クラブ連合会の28、29年度理事として選任頂いてから、早くも一年半が経ちました。

本場に「光陰矢のごとし」とはよく言ったもの、月日の経つのは早いもので、この間各単老の会長さんをはじめ、女性部長さんまた会員の皆様のあたたかいご支援のおかげで現在まで何とか過ごさせて頂くことが出来ました。有難うございました。

さて、皆様もお感じになつておられると思いますが、年々高齢者が増えていくにも関わらず全国的には老人クラブの会員数が激減していると伝えられています。その風潮ははたして何なのか、その思いははたして？このことについては先号に当クラブの大林副会長が所感を述べておられます。私も役員一同、同じ高齢者の仲間として共に支え合いまた助け合つて楽しく明るい地域作りを目指したいとの思いで活動させてもらっています。

国の方でも危機感をいだき色々な支援活動に取り組みはじめてくれ出しました。これからの老人クラブの活動に大きな希望が見えてくるものと思っています。

何はともあれ私どもに残されましてあと半年の任期を無事まっとう致したく精一杯務めさせて頂いたと思います。会員の皆様の暖かいご支援をお願い致します。

女性部

部長 北村 せつ子

老人会に入会して、あつという間に単老の役をいただき、終わつたら次は理事という大きな役目を何も分からないまま受けさせて頂いたことになりました。

今、老人会の現状をながめてみると、役がいやで入会しないという方が多いです。……実は私もそうでした。でも、皆さんと打ち合わせをし、相談しながらいろんな行事に参加したり、こなしていくうちに名前も知らない方々と、お互いに顔をおぼえ楽しい時間をすごしていくことに、本当にいい思い出ができたこと、ありがたいなとは思えることができ

ます。

阪神淡路大震災、東日本大震災等いつどこで何がおこるかわからない今日です!! 好きなもの同士が好きなことだけをして楽しただけでなく、ご縁ある方々と助け合い、いたわり合うことの大切さを思います。

老人会員として働かせていただける間は頑張つて、今までのこと、人生にお返しをしていくことが大切と思わさせて頂いております。老人会に参加して下さい。どうぞおさそいして下さい。皆さんの力で協力して地域を守っていききたいと思ひます。いたらない私をお使いいただき、お世話になりました。

体育部

部長 北村 隆

体育部では、活力ある長寿社会を構築する為の、健康づくりの一環として、ふれあい体育祭を例年通り開催し、会員相互の交流の機会とらえ推進してまいりました。各種目の競技に参加頂きましたが、成績については近年小集落の、取組み・姿勢が、成果として好成績を残されていることに敬意を表する次第です。一方ゲートボール種目は、愛好者が減

厚生部

副部長 北川 和男

少して、参加集落が減り大会の運営をすることが容易でなく、次年度開催に向けて早い時点での検討が必須です。ゲートボール連盟へ問題提起させて頂きます。

今後、会員皆様には積極的に参加頂き近江老人クラブ連合会の発展にご尽力賜りますようお願いいたします。

役員改正で厚生部と云う役を受け何もわからないまゝ今日に至つたわけです。残り4分の1期の行事があります。会員の皆様には何かと協力賜り厚く御礼申し上げます。今後の行事についてもよろしく御願ひします。

厚生部の主な行事で親睦旅行がありますが、参加者が少なくどうしたら多くの人が参加して下さるか、又やすらぎ奉仕作業に於いては付近に民家が建ち作業方法の検討、又作業時間に付いては車の通行が多く事故にもつながり兼ねないので時間帯を考へる等より良い方法を見い出して頂き作業を行つて頂くと共に会員の皆様には更なる協力をお願いいたします。

教養部

部長 平居 則之

わたくしたち4人は、思いもよらず教養部を担当し早いもので一年半が経ちました。

教養部の主な仕事は、「近江高齢者大会」の計画・運営、広報誌「ねんりんおうみ」の発行です。わたくしたち全員が広報誌に関わるのは、はじめてで途方に暮れたのが実情でした。しかしながら、何とかしなければと強い意志を持ち奮起・立ち上がり、自分たちのスタイルで編集しようとした決意し広報編集に取組みました。

紙面作成では、原稿が集まるかどうか不安になりこころ悩むこともありましたが、各単老の協力で、多くの投稿をいただき、おかげで大変読みごたえのある紙面を作り上げるこことが出来たのではと自負してるしいです。この場を借りて心より感謝致します。

この2年間を振り返ってみますと、教養部一同慣れないことで、悪戦苦闘しながらも、多くの方々によつて支えられ、4回の広報誌発行という任務を果たすことが出来ました。会員の皆様には、大変お世話になりました。ありがとうございました。部員一同お礼申し上げます。

記事紹介

全国老人クラブ連合会月刊誌八月号に、キャンプ場運営に活躍されている宇賀野老人クラブの記事が掲載されましたので、その一部を紹介します。

キャンプ場を開いています

会員の連携でキャンプ場を開設・運営

当地区が琵琶湖の近くに位置している関係から、地区内の宇賀野神明浜湖岸と坂田神明宮の所有地をお借りして毎年キャンプ場を開設、運営しています。この活動が始まったのは昭和43年頃で、今日まで50年近く続いています。キャンプ場は、7月初旬の開設準備に始まり、安全祈願の後、7月18日から8月30日まで開きます。

この活動は、参加できる会員で11班の体制を組み、1班4回、44日間の日程で行います。各班の出動者は1日常駐し



て、朝のうちに湖岸の清掃やトイレ掃除等を行い、その後、来場者の案内や駐車料金等の徴収を行います。集まったお金は、老人クラブの活動費に充て有効に使います。なお、地区の各種団体や市内の幼稚園等利用については無料にしています。出動者へは茶菓子程度の提供にとどめ、キャンプ場閉鎖後に参加者全員で慰労を兼ねた反省会を行っています。

会員相互の親睦も深まる

昨年は、天候にも恵まれて大勢の人に来ていただきました。特に、岐阜や名古屋方面からの若者たちがプレジャーボートで湖上を走り回ったり、バーベキューをして楽しむグループもたくさんありました。また、外国から日本一の琵琶湖へ、その中でも神明キャンプ場を目指して来られてテント泊される方もおられました。対応した当番の会員からは、言葉が通じず、「英会話ができなアカン」との声も出ていたようです。

とにかく無事終えることができ、恒例の反省会は79名の参加で盛り上がりました。今後、来場者には美しい環境で喜んでもらえるように、また、キャンプ場の運営に取り組むことで、老人クラブ会員相互のコミュニケーションや親睦が一層深まり、仲間同士の助け合いや心身の健康増進にもつながるように、活動を続けていきたいと思っています。

(前会長 谷村 純一)